

台湾・南方澳漁港 100 周年記念国際シンポジウム

9月11日・web 会議専用ブースから泥谷光信土佐清水市長が祝辞

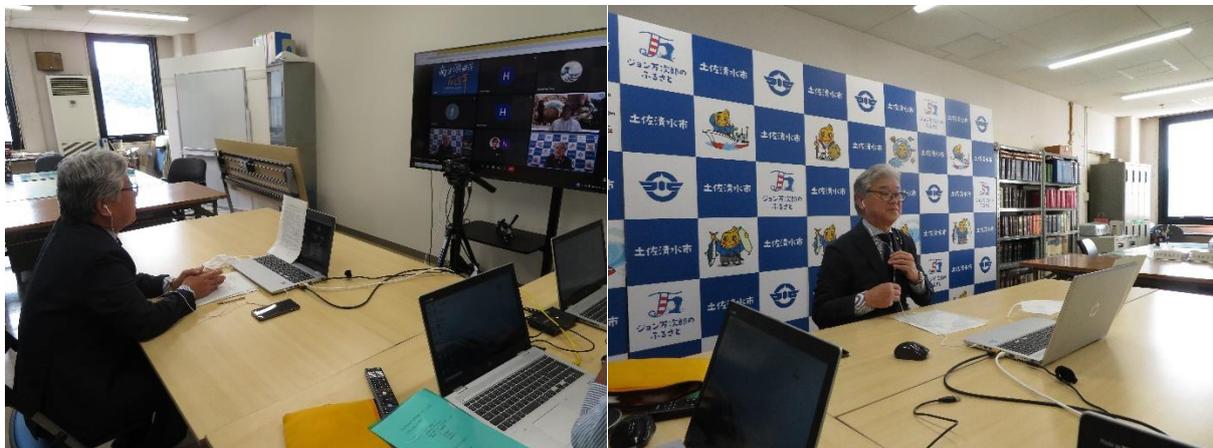
『旧・土佐清水市史』の近現代史の章では、土佐清水市民の海外移住の例として2例が記載されていました。「明治末の斧積地区の南米ブラジル移住」と「松尾地区の当時英国領ボルネオ・カツオ節工場への出稼ぎ」がそれです。

高知大学シニアプロフェッサー・吉尾寛先生は、人文学部長時代から「大正末から昭和初めにかけておこなわれた高知県等の漁浦から台湾南方澳への漁業移民」について、科研調査を実施していた。その後、私は土佐史談会を介して吉尾先生と面識を得ることができ、市内での聞き取り調査にご一緒させていただいた。

その縁もあり、『新・土佐清水市史』において、「黒潮がつないだ台湾への移住」と題してピンポイントに執筆していただけることになった。漁業移民は、愛媛県や宮崎県等からの移住もあったが、高知県から移住した人たちが多かった。中でも土佐清水市民が大部分を占めていた。

泥谷市長は、台湾・南方澳漁港と土佐清水市との縁から、今回の国際シンポジウムの主催者である台湾・宜蘭博物館長から依頼を受け、祝辞をすることになった。市長は、大正末から昭和初期にかけて市内清水・中浜・松尾の漁民が夢と希望を抱いて南方澳へ移住したこと。第二次大戦の戦禍によりやむをえず帰国せざるを得なかったものの、当時の移住者の方々は、志しを持って熱い思いで漁業振興に努めたこと。このような歴史的な一つ一つの縁を大切にしながら、今後、末永く交友を図っていききたいことなどを祝辞で述べた。

台風14号が台湾に接近し、開催が危ぶまれたが何とか無事に開催されることになった。なお、祝辞は、宜蘭県知事(代理者)、スロバキア大使、泥谷土佐清水市長、岡原宇和島市長等4名の方々が祝辞を述べた。





なお、この web 中継にあたっては、高知大学シニアプロフェッサー吉尾寛先生に技術のご指導をいただいた。また、当市役所・総務課情報システム係の細川展さんにも会場設営の他、機器設定でお世話になった。

今回の市史編さん事業は、単なる市史編さん業務だけに留まらず、様々な面で成果が挙げられている。(田村)

☆吉尾寛先生、泥谷市長、細川さん、本当にありがとうございました。

国史跡をめざす「真念庵境内地・試掘確認調査」日程変更

9月8～10日(水～金)⇒10月25～27日(月～水)へ変更

今月8～10日(水～金)の予定で境内横の空地等の試掘確認調査を計画していたが、高知市が「コロナまん延防止措置」となり、試掘の技術的指導を依頼していた県教育委員会文化財課埋蔵文化財担当・下村チーフが来市できなくなり、10月25～27日(月～水)に日程変更となった。

試掘確認調査にあたっては、地権者にも承諾書・同意書を事前にいただいており、重機とオペレーターを地元の建設業者に依頼し、作業員も土佐清水市郷土史同好会会員の2名の方に協力いただくことになっている。後は実施するのみ。



—編集後記—

今月29日(火)に14時から中央公民館にて、「第2回市史編集委員会」が開催されますので、日時・開催場所等お間違えのないようお願いいたします。今週は台風の影響で天候が雨日が多いようです。29日は秋晴れになってほしいと思います。(田村)